

○12番 山口りさ君

中京中学校2年、山口りさです。私は、行橋市の学校給食について、提案いたします。

まず、私は、6年前に北九州市から本市に引っ越して来ました。そこで、行橋市の給食のメニューの多さ、おいしさが、毎日当たり前なことに驚きました。

工藤市長は、今後4年間で給食の質を上げる、とおっしゃっていますが、メニューを増やすのか、オーガニック給食など素材にこだわるのか、どのようにお考えでしょうか。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

山口議員のご質問にお答えいたします。

まず、給食費無償化は、先ほどもちょっと触れましたけれども、国が小学校を無償化しようと、実際は国が全て無償化してくれているわけではなくて、市の持ち出しもあるんですけれども、中学校に関しては、市が独自で無償化をさせていただくことにいたしました。

それと同時に、私は、質の維持・向上という言葉を使わせていただいております。これは、物価高騰などによって質が落ちないように、しっかりと維持していくこと。同時にさらなる質の向上を目指していく。それはどういうことかという、例えばいま議員からもお話が出ましたけれども、オーガニック、有機野菜やあるいは有機のお米を使っていく、こういったことも徐々に増やしていきたいと思っております。

ちなみに今年度に関して申し上げますと、今までは有機栽培米を700キログラム、これは毎年寄贈いただいていたんですね。小中学校で1日ないし2日間の給食で有機栽培米を提供していたのですが、今年度は、12月に有機農業の日というのがあるのですが、そこに合わせまして、倍の1,400キログラムの有機栽培米を給食に2日間出すという方向で、いま現在計画を進めさせていただいております。これが有機・オーガニックですね。

そして2つ目としまして、ちょっと公費負担の材料の質と量についてなんです、これは先ほど申し上げましたが、要は、いつ、いかなる状況になっても、物価が上がろうが何が起ころうが、皆さん方の給食を止めてはいけないと我々は考えております。しっかりとどのような状態であっても、最低限でも今の質をきちっと維持して給食を提供してまいりたいと思っております。

そして3つ目ですが、これは、それこそ北九州市で既に取り組みされていることなのですが、地元の料理人の方々などにご協力いただいて、新たなメニューを開発したり、そういったものをやりたいと、これは私が言い出したことなんですけども、したいと思っ

ております。

これはですね、いま給食も、まずは第一に栄養を考えておりますので、よく厳しいご意見も正直いただくんですね。見た目がどうにかならないとか、ちょっと見た目が寂しい、とかですね、これじゃあ量が足りない、とか。でも量も実はいろいろな問題があります。少量しか食べられない児童・生徒さんもいれば、たくさん食べる方もいらっしゃるし、でも一応大体平均して一人当たり、給食では何カロリーとってもらって、栄養素はこれだけとってもらう、これはしっかりと計算して、正確にその分量を用意しております。

ただ、体調によっても食べる量も違いますし、この辺がなかなか難しいんですけども、また、おいしいか、おいしくないかというのは、個々人の判断もありますので、ただ、少なくとも今までの例えば管理栄養士の判断だけではない、発想だけではない料理といったものを提供できたらと思っておりますので、今後地域の料理人の方々とコラボレーションして、連携して料理を提供していきたいと思っています。できればこういったことが月いちできればなと思っておりますけれども、いま現在、そういったことを検討している段階でございます。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

山口議員。

○12番 山口りさ君

市長、回答をありがとうございました。

今の行橋市の給食からさらに質を上げるということは、福岡県の自治体の中でも、毎日の給食のレベルがかなり高くなると思います。なので、それを、SNSを使って市内外に発信することで、これを知ったご家庭が移住先に行橋市を考えてくれるきっかけになると思います。また、行橋市内に住んでいる市民が、給食の質がどのように上がったのか、目で見て確認することができます。

SNSの発信と同時に、現在デジタル化している献立表を、元の紙の配布に戻してみるのはいかがでしょうか。

中京中学校内で給食の献立表のデジタル化について、全校生徒の中の140人にアンケートを取りました。すると、献立表が配られず困ったことはないが、目に付く所にあったほうがいい、という回答が121人いました。矛盾した結果ではありますが、給食の質が上がったことを、献立表を見て、食べる児童だけでなく、同居している家族も実感して、行橋市の給食がもっと良くなっていることに興味を持ってもらえるように、紙に一度戻してみるのもよいのではないかと思います。ぜひご検討ください。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

給食の献立プリントの配布についてですが、先ほど松田議員へ回答させていただいたように、献立表のペーパーレス化を推進するため、学校連絡アプリすぐーるや防災食育センターのホームページで公開しているところです。もし、紙ベースの献立表のほうがいいと思うときは、掲示用など予備の献立表があると思いますので、先生に気軽に相談してみてください。なお、教室のほうに、たぶん献立表を貼っていると思うんですね、それをご覧になることもあるのかなと思います。

またSNS等の件も出ましたけれども、いま給食センターのほうで動画を作っておりまして、その動画を各学校に送信しております。その動画を見ていただくと、給食の良さ、あるいは苦勞、そういったこともお分かりになると思いますので、そこはまた参考にしてもらえればなと思います。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

山口議員。

○12番 山口りさ君

教育長、回答をありがとうございました。次の質問に移ります。

次に、中京中学校の学校設備と通学路の現状をお伝えします。現在、中京中学校は、3年生2クラス、2年生3クラス、1年生3クラスで、1クラスは視聴覚室を使っていて、教室の数が1つ足りない状態です。来年も1年生が3クラスと予想され、教室の数が今後足りなくなることが予想されます。

これまで中京中学校では、教室数が足りないことはなかったそうですが、今川小学校の児童数が増えており、教室の数が足りない状態が続くと思われます。

今川小学校のように新校舎を建てることで教室数を確保するのか、今の校舎で十分にクラス数を確保できるのか、一度聞き取り調査をよろしくお願いいたします。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

まずは、山口議員の今回の質問では、小学校での経験をもとに、中学校の来年度の生徒数から、教室の不足について心配していただいているということ、大変うれしく思っています。

今ご提案いただいた件につきまして、教育委員会では、各学校の児童・生徒数や必要な教室数について、随時、学校と連携して調査を行っております。その調査により、教室が必要となった場合には、英語教室や多目的教室などを教室へ転用するようにしてお

ります。中京中学校のように、新たに教室が必要となった主な理由は、35人以下学級という制度が進んできたためであります。

今後、課題もありますけれども、中京中学校のように子どもが増えて9クラスとなるという実態が見えてきておりますので、また学校と協議をしまして教室を確保していきたいと思っています。以上であります。

○前半議長 和嶋富夏君

山口議員。

○12番 山口りさ君

教育長、回答をありがとうございました。

次に、通学路についてです。街灯が暗く、冬の間、部活動をして帰ると、辺りが真っ暗で何も見えず、スマホのライトや懐中電灯を使って道を照らして歩いて帰る生徒もいますが、前から歩いて来る人や車の運転手の顔がよく見えないので、確認できず、不審者だったら危ないなと感じました。このことから、私は、冬の間は周りが暗く歩いて帰ることが怖いので、部活動を休んでいます。

これから行橋市の部活動のあり方も変わると思いますが、地域の防犯のためにも街灯をもう少し明るくしていただけると安心できます。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。本当にこれも重要なことだと思います。

市内8,800箇所に防犯灯がございます。その内、中京中学校区内には1,135箇所ございます。この防犯灯は地元区の方々とお話をしながら設置をしたりしていくわけですが、設置箇所のことと、それからLED化ですね、これはだいぶ明るくなるのと電気代も抑えることができます。

現在、市内で77.2パーセントがLED化されておりますので、しっかりとこの辺も地元の方々と協議をしながら、また今回議員からいただいたご意見も踏まえながらLED化を進めて、そしてより明るくて安全・安心な登下校ができるように努めてまいりたいと思っています。ありがとうございます。

○前半議長 和嶋富夏君

山口議員。

○12番 山口りさ君

市長、ありがとうございました。できる限り早く実現できるよう、期待します。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。